

平成23年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 マガレイ

学名 *Pleuronectes herzensteini*

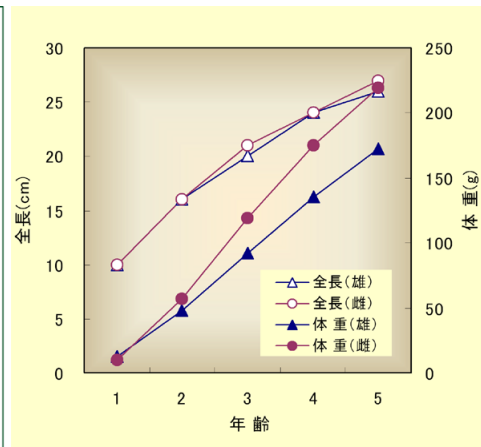
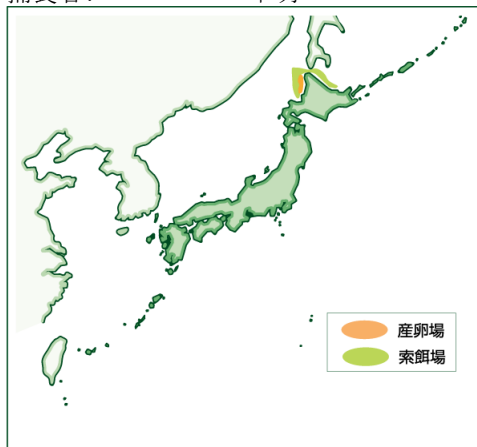
系群名 北海道北部系群

担当水研 北海道区水産研究所



生物学的特性

寿命: 雄5歳、雌10歳以上
成熟開始年齢: 雄1歳、雌2歳
産卵期・産卵場: 4～6月、苫前沖～利尻・礼文島周辺海域
索餌期・索餌場: 北海道の日本海側～オホーツク海側の沿岸
食性: 仔魚はカイアシ類、未成魚と成魚はゴカイ類、二枚貝類、ヨコエビ類、クモヒトデ類
捕食者: 不明

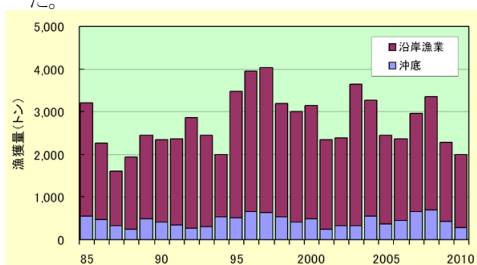


漁業の特徴

マガレイ北海道北部系群は、主に刺し網漁業によって漁獲されており、日本海における主漁期は10～6月で、オホーツク海における主漁期は5～12月である。また、日本海では主に成魚が漁獲されるのに対し、オホーツク海では主に未成魚が漁獲されるが、漁獲量は日本海で多い。

漁獲の動向

沖合底びき網漁業(沖底)の漁獲量は、1983年以降1,000トン未満で推移しており、2010年は291トンであった。沿岸漁業の漁獲量は、1980年代後半以降増加傾向を示したが、1998年以降は増減を繰り返しながらも減少傾向にあり、2010年は1,696トンであった。沖底と沿岸漁業を合わせた漁獲量は、1980年代後半以降約2,000～4,000トンの間で推移しており、その中で、豊度の高い年級群が発生した後に増加する傾向にある。2010年の漁獲量は1,987トンであった。

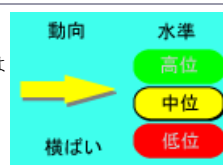


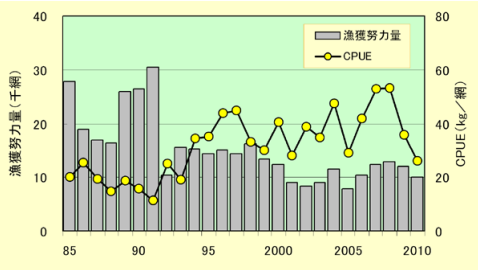
資源評価法

CPUEは沖底についてのみ算出可能であるが、沖底の漁獲量は全漁獲量の2割程度であることや、沖底と沿岸漁業では漁獲物の年齢組成などに違いが見られることから、沖底のCPUEを本系群全体の資源量の指標とすることは妥当ではないと推察される。よって、漁獲量を基に資源状態を判断した。なお、稚内水産試験場(稚内水試)は、本系群について幼魚密度調査やコホート解析による資源量推定を実施しているため、それらの結果も参考とした。

資源状態

過去26年間(1985～2010年)における漁獲量の平均値を50とすると、2010年の漁獲量は36に相当するため、資源水準は中位と判断した(低位:～30、中位:30～70、高位:70～)。また、過去5年間(2006～2010年)における漁獲量の変化パターンから、資源動向は横ばいと判断した。なお、稚内水試が実施している幼魚密度調査や資源量推定結果によると、1993、1996、2000、2004および2007年級群の豊度が高いと考えられる。一方、2009および2010年級群に関しては豊度が低い兆候が認められている。





管理方策

資源状態は中位で横ばいと判断されたが、2009および2010年級群に関しては豊度が低い兆候が認められている。よって、漁獲圧を現状よりもやや抑えることにより、現在の資源水準(中位)以上を維持することを管理目標とした。ABC算定規則2-2)ー(2)に基づき、過去5年間(2006～2010年)の平均漁獲量×0.9をABClimitとし、ABClimit×0.8をABCtargetとした。

	2012年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	23百トン	0.9Cave5-yr	—	—
ABCtarget	18百トン	0.8・0.9Cave5-yr	—	—

資源評価のまとめ

- 漁獲量を基に資源状態を判断
- 資源水準は中位、動向は横ばい
- 2009、2010年級群の豊度が低い兆候

管理方策のまとめ

- 漁獲圧を現状よりもやや抑えることにより、現在の資源水準以上を維持することを目標にABCを算定

執筆者：船本鉄一郎・山下夕帆

資源評価は毎年更新されます。